

主 題：模範であった信仰者たち
聖書箇所：Ⅱテサロニケ1章3－4節

きょう私たちはⅡテサロニケ1：3－4をご一緒に学んでまいります。短いところですから、1節からお読みしたいと思います。

:1 パウロ、シルワノ、テモテから、私たちの父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。

:2 父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。

:3 兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。

:4 それゆえ私たちは、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と患難とに耐えながらその従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています。

今お読みしたパウロの手紙の中で、私たちが明らかに見て来たことは、パウロはテサロニケのクリスチャンたちのことを神に感謝し、彼らのことを誇りとしていたということです。なぜ彼らがこのようにパウロによって賞賛されたのか——。それは彼らのクリスチャンとしての歩みです。彼らの生き方が主の前にすばらしかったからです。確かに彼らはクリスチャンの模範として、主がお喜びになる歩みをしていました。パウロはそのことを神の前に感謝し、彼らのことを人々の前で誇り続けていたわけでした。

きょう私たちはこのみことばを学んで行くのですが、二つのことをぜひ皆さんにしっかりと覚えていただきたい。今から私たちはこのテサロニケの教会の人々がどんなにすばらしい信仰者であり、どんなにすばらしい模範を示していたのかを見て行くのですが、決して彼らだけのことと思わないでください。みことばが私たちに教えてくれることは、あなた自身も彼らが歩んだと同じように歩むことができるということ、それが一つ目。そしてあなたには彼らと同じように歩む責任があるということです。もう二千年前の人たちで、場所もテサロニケではないですか、どうして今の私と関係があるのかと言われるかもしれません。関係があるのです。主はあなたにも彼らが歩んだように歩むようにと命じておられるし、その責任があるのだということを我々は忘れてはいけません。この二つのことを覚えながら、きょうのテキストをご一緒に見てまいりたいと思います。

A. パウロが感謝した理由 3節

まず最初にパウロが主に感謝を捧げ、人々の前で彼らのことを誇っていた理由を見て行きます。実はそのことがこの3－4節の中に記されているのです。パウロが神の前に彼らのことを感謝し、彼らのことを人々の前で誇っていた理由がこの中に記されています。

1. パウロの感謝

① 「感謝しなければなりません」

まず3節を見ると、パウロがテサロニケのクリスチャンたちのことを神に感謝していること、そして同時にその理由までもが記されています。3節に「兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。」とあります。この「なりません」という動詞ですが、それはあたかもそれが義務づけられているような、そういった責任が私にはあるのだというような意味を持ったことばをパウロは使っています。

② 「そうするのが当然なのです。」

しかも「そうするのが当然なのです」とあります。この形容詞もおもしろい意味を持っていて、「それに値する」とか、「その価値がある」とか、「それにふさわしい」ということです。つまりパウロがここで言わんとしていることは、テサロニケのクリスチャンたちのことをパウロ自身が覚えるたびに、どうしても神の前に感謝せざるを得ない、どうしても神様に感謝を捧げなければならないということです。なぜなら彼らの信仰が成長していたからです。そしてこのように彼らを成長させてくださった神様に賞賛を捧げる価値があるのだと言うのです。

ですから、パウロは彼自身がⅠコリント3：7で言うように、我々人間にできることは限られていて、福音の種をまき、その種が芽を出し成長することを祈ることです。実際に彼らの信仰が成長して行くのは、神のみわざだということをちゃんと知っています。だから成長している様子を聞いた時に、神様が成長させてくださっていると、彼の賞賛は神に向くのです。神がこのテサロニケの人々の信仰の成長を導いておられると。ちょうどすばらしい贈り物をいただいた時に心からそれを感謝するように、パウロは神様がテサロニケの教会にあってこんなすばらしいみわざをなしてくださったことを知った時に、そのすばらしい働きをなされた神様をたたえるのです。あたかもそれが義務かのように、神にはその値打

ちがある、神は賞賛するにふさわしいお方であるといったことが3節の初めに記されています。

2. その理由：「なぜなら」

パウロがこのテサロニケの人々のことをこんなにも神様の前に感謝した二つの理由が3節のところに記されています。一つ目は、彼らの信仰が成長していたという事実であり、もう一つは彼らの愛が成長していたという事実です。この二つのことがパウロが神に感謝をした理由であると記しています。

① 信仰の成長

3節「なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し」とあります。テサロニケのクリスチャンたちの信仰が目に見えて成長していたと。パウロは「非常に大きく」とか、「十分に」とか、「豊かに」信仰が成長しているという意味を持ったことばを使うのですが、彼らの信仰の成長というのは言葉ではなかったのです。彼らの信仰の成長は実際に目に見える形で明らかになっていたのです。パウロはどうしてそれを知ったかという、パウロは確かにテサロニケの町を訪問し、福音宣教をなしました。ところがユダヤ人たちの迫害によって彼らはそこからベレヤの町に移動します。彼らというのはパウロとテモテとシラスの三人です。ベレヤの町というのはすばらしい町で、すばらしい教会が存在します。パウロのことばであっても、本当にそれが神のおことばかどうかと言って神様のおことばを調べたとありました。私たちもそうありたいです。著名な先生がお話しになったから、すべてを信じるというのではなくて、語られていることばが本当に神様のおことばと一致しているのかどうかを探るといふ信仰、そういう信仰者、それがベレヤでした。そしてそこにテモテとシラスを残し、二人に対してアテネで落ち合おうと命じた上でパウロはひとりでそこからアテネへと下って行きました。そして二人がアテネにやって来ます。今度パウロの関心はあのテサロニケの教会がどうなっているかということでした。

そこで、パウロはテモテをテサロニケに送ります。恐らくシラスはピリピに送ったのでしょう。その後パウロはアテネからコリントの町へと移動します。そしてそこにこの二人が戻って来るのです。テモテはこのテサロニケのすばらしい報告を持って戻って来ました。そしてパウロはそれを受けてテサロニケ人への手紙を書きます。第一の手紙を記した後恐らく数カ月してから、第二の手紙をコリントから記したと言われています。ですからパウロは実際にそこに送った最も信頼できる同労者テモテからテサロニケの現状を知るわけです。それを知ってパウロは喜びました。パウロの心は喜びにあふれました。そしてその喜びは主への感謝へ、そしてその喜びはパウロが至るところでこのテサロニケの人々のすばらしさを、信仰を語って行くという結果を生み出したのです。あなた方の信仰は確実に成長していると、主への信頼が増し加わっているのです。

② 愛の成長

しかも「愛」も成長していたと3節のところに出来ました。この「愛」というのは人間の愛ではなくて、アガペーの「愛」です。テサロニケのクリスチャンたちは神様の「愛」をいただきました。そして彼らはこの「愛」を持って生きる者たちへと成長して行ったのです。パウロはそのことを喜ぶわけです。ですから、パウロは「愛」に関してこんな説明を加えています。

(1) 兄弟間の相互の愛：「ひとりひとりに相互の愛が」

3節の後半「ひとりひとりに相互の愛が増し加わっている」と書かれています。このテサロニケの教会においては兄弟間にこのような「愛」が存在していたのです。つまり教会にあってクリスチャンが、兄弟姉妹たちがお互いに愛し合っていたとパウロは記しているわけです。兄弟姉妹が愛し合うということは非常に大切なことです。

・主の愛を示すため：Iヨハネ4：7

なぜなら私たちは神様の愛をいただいた者として、その愛がどんな愛なのかを人々の前に明らかにするのが私たちに与えられた大きな責任です。確かに私たちは人々の前で「神は愛です」と言います。人々はそのメッセージを聞くことができます。でも彼らが求めているのは、その愛が生きて働いている姿です。このテサロニケのクリスチャンたちがすばらしかったのは、神様によって愛をいただいた人々がその神の愛をもって兄弟たちを愛したということです。そのことがこの教会の中で行なわれていた。Iヨハネ4：7に「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」と記されているのを思い出します。「互いに愛し合ひましょう」という命令を私たちはいただいています。この愛は私たちが生まれつきに持っている人間の愛ではありません。イエス・キリストの救いに与った私たちがいただいた神の愛をもって互いに愛し合ひて行こうと。

ということは、生まれながらの愛をもって互いに愛し合うということは不可能なのです。神様の愛をいただいて、その神の愛をいただいた者が初めてこのようなことを実践することができる。だから教会という組織はこの愛の実践が必要なのです。そのためにはあなた自身がそのような人に変えられて行かなければいけない。「互いに愛し合ひましょう」と言っているのです。愛をいただいたあなたがその愛を実践する者になりなさいと。まさにテサロニケのクリスチャンたちはそのように生きていたのです。神

の愛をもって人々を愛していた。神の愛をもって兄弟姉妹を愛していたのです。

・福音宣教のため：ヨハネ 13：35

また福音宣教のために兄弟姉妹が愛し合うことが大切なことは皆さんご存じです。イエス様がヨハネ 13：35で弟子たちに「『……もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。』」とお話しになった。つまりクリスチャンが互いに愛し合うということは福音宣教においても重要だと言うのです。クリスチャンがいがみ合っていたり、争っていたり、クリスチャンの間に好き嫌いが存在しているようでは、人々はあなたのうちにキリストを見ないと。非常に大切なメッセージです。我々救いに与ったひとりひとりがこのキリストの愛をもって兄弟姉妹を愛して行く、無条件の愛をもって愛して行くと。その時に我々は人々の前にこういう神がおられるのだ、そしてこんな愛でもって私たちは愛されているのだということを示すことができるし、我々が互いに愛し合うことによって、このような人に変えてくださった救い主なる神様のすばらしさが世に証しされて行く。だからテサロニケのクリスチャンだけの話ではないのです。あなたや私にとっても大切なことなのです。それが実践されていたのでパウロはそのことを神に感謝したのです。

(2) すべての兄弟たちに存在した愛：「あなたがたすべての間で」

もう一つは同じ3節に「あなたがたすべての間で」とあります。つまりこの愛は教会の中のごく一部の人たちの間にだけ存在したのではなくて、すべての兄弟たちに存在していたと言っているのです。みんなが愛し合っていたのです。教会のあるグループだけが愛し合っていたのではなく、みんなが愛し合っていた。これがテサロニケの教会だったのです。

今もしパウロが私たちの教会を見たとしたら、どんな評価を下すでしょう。テサロニケの教会と同じように「神様、感謝します、あの浜寺の教会は愛において成長しています」と、そんなお褒めのことばを我々はいただけのでしょうか。鍵はあなたがそういう人になることです。どうぞ仕方がないのだと言わないでください。神様はまだあなたを変えようとしてくださっている。最初にお話ししたようにテサロニケのクリスチャンたちは賞賛されていました。こういう人へと、もっと言えば主イエス・キリストに似た者へとあなたや私を主は変え続けておられるということです。我々ひとりひとりの主に対する祈りというのは、「主よ、どうぞ私を変えてください。」「愛において、信仰においてもっと成長するように私を助けてください」です。パウロはこのテサロニケのクリスチャンたちを見る時に、彼らの信仰が成長し、彼らの愛が成長しているのを見て神様に感謝を捧げていました。

そして最後に見ていただきたいのは、パウロはテサロニケのクリスチャンたちの何を感謝していたか——。テサロニケのクリスチャンたちの知識を感謝していません。テサロニケのクリスチャンたちがこれだけのことを知っていたということを感じているのではないのです。彼らは確かに神様のみことばを学んでいたでしょう。しかし、パウロが賞賛していたのは、彼らの知識ではなくて、彼らの生活だったということです。彼らはクリスチャンとしてそれにふさわしく生きていたのです。ですからパウロはそのことを賞賛するのです。

確かに神があなたや私を成長させてくださいます。しかし、我々が成長するためには、我々にも責任があるということはもう皆さんよくご存じです。私たちはみことばを正しく学び、そしてそのみことばを実践することです。繰り返しますけれども、それがなければ成長しません。知識はあなたを高ぶらせます。しかしあなたがその学んだことを実践することによって、神ご自身があなたを砕いてくださり、あなたを変えて行かれます。ですからこうしてテサロニケのクリスチャンたちが成長していた様子を見る時に、間違いなく彼らはみことばを正しく学び、みことばの実践に励んでいた。それ以外に成長する方法はないのです。実践なさることです、主はあなたを変えて行かれるから。

B. パウロが誇りとした理由 4節

さて4節を見ていただきますと、パウロが彼らのことを非常に誇りとしていたことが記されていて、そしてその理由までも記されています。

1. パウロの誇り

① 「誇りとしています」：Ⅱコリント 7：4

4節をごらんいただきますと、最後のところに「誇りとしています」とあります。新約聖書の中でここにしか出て来ないことばです。パウロはこのテサロニケの人々のことを大変誇りに思っていた。

② 「神の諸教会の間で」：公然での賞賛

でもこれはパウロの心の中だけの話ではなかったのです。なぜかという、4節に「神の諸教会の間で」とあります。つまりパウロは、教会の中で、人々の前でテサロニケの人々のことを賞賛していたのです。しかもこの「諸教会」というのは複数ですから、恐らく彼が複数の教会を訪問した時に、あのテサロニケのクリスチャンたちはこんなふう成長しているのだと言って彼らのことを誇っていた。そのことを我々はここに見ることができます。すばらしいクリスチャンたちなのだ、主がすばらしいみわざをなし

ておられると、人々の前で彼らのことを自慢していた。彼らの信仰は成長し、彼らの愛は成長している、すばらしい人たちがテサロニケにはいるのだと。

2. パウロが誇った理由：困難の中での彼らの信仰

パウロは彼らのことを誇った理由を4節に挙げています。その前にパウロは「すべての迫害と患難とに耐えながら」と言います。この「迫害」というのは、主イエス・キリストを信じ、みことばに忠実に従って行く時にすべての信者に例外なく起こることです。みことばに忠実に歩いて行こうとすれば必ずいろいろなところに障害や摩擦が出て来ます。さまざまな迫害の話です。そしてパウロは彼らの「患難」と言います。このことばが表していることは、テサロニケのクリスチャンたちは大変苦しい状況にあったということです。彼らはたくさんの苦難を経験し、たくさんの試練を経験していたということです。パウロは彼らが頭を抱えるほどの困難を経験していたということを明らかにした後で、賞賛した理由を挙げて行くのです。パウロは、テサロニケのクリスチャンたちがその迫害の中で、その患難の中で主に従い続けたことを知って彼らのことを誇ったのです。テサロニケのクリスチャンたちがその迫害から解放された後、忠実に歩んでいる様子をパウロが賞賛したのではないのです。なぜそう言い切れるかというと、4節に「すべての迫害と患難とに耐えながら」と、あえてパウロが記しているからです。この動詞を現在形で、まさにテサロニケのクリスチャンたちはそういった状況の中にいたのです。彼らは大変な迫害を経験し続けたのです。彼らは大変な患難を味わい続けていたのです。その中にあって彼らはこういう歩みをしたということをパウロは言わんとするのです。

私たちがよく陥ってしまうのは、問題があると「神様、どうぞこの問題から私を解放してください」、「この問題を解決してください、そうすれば……」と言うのです。彼らは問題の真ただ中にありながら神様に従い続けたのです。「解放して下さったら従います」ではなかったのです。彼らはその中にあって従い続けたのです。だから、パウロは彼らのことを賞賛するのです。

【二つの理由】：

① 彼らの従順さ

二つの理由があります。一つは4節に「耐えながらその従順と」と、彼らの従順さと記されています。ここにマークがついていますので、欄外を見ると、これは「忍耐」というふうにも訳されるという説明があります。どちらかというところ、この箇所は「忍耐」と訳した方がいいと思います。これと同じギリシャ語が新約聖書の中に32回出て来ますが、2カ所を除いてすべて「忍耐」と訳しています。「忍耐」と訳されていないところも「よく耐える」とか「耐え抜く」と訳されていて、どちらかというところ「従順」というよりも「忍耐」という訳で統一されています。

ただこのことばを「従順」と訳したのには理由があるわけです。実はこのことばにはこういう意味があるのです。マスターズ神学校のドクター・トーマスというギリシャ語の権威の方が、この「忍耐」ということばの定義を次のようにされています。「これは、積極的・意欲的で、また勇敢なクリスチャンの特性である」と。たとえどのような困難の中にあっても、自己憐憫をしめ出す。「忍耐は、失望を除き、如何に希望が見いだせない状況でも前へ進むのである」と。こういう信仰者はどのような困難の中にあっても自己憐憫をしめ出すと。なぜ自分ばかりこんな目に遭っているのか、なぜ自分はこんなに辛いのか、なぜ、なぜという自己憐憫をしめ出す、そういうことをしなさいと言うのです。テサロニケのクリスチャンたちは大変な迫害の中にあっても、大変な困難の中にあっても忍耐をもって従い続けたのです。彼らは忍耐をもって主に従い続けた。だから恐らく従順と訳したのでしょう。まさにそれが彼らの生き方だったのです。彼らがそんなふう生きていたのです。

なぜこんなふうにならば彼らが生きたのか、実はこのテサロニケ人への手紙第二も第一もそうなのですが、パウロはここで主の日について、主のさばきについて記しています。つまりクリスチャンにはすばらしい希望があるのです。今たとえどんなに迫害を受けていようと、どんなに苦しくてもあなたは主の前に立つ時に、主がその信仰に応じてすばらしい報いを与えてくださるという希望です。この主の日に関する誤った教えが入っていたので、テサロニケ第二の手紙はそのことについての矯正をしています。パウロが言わんとしていることは、信仰者の皆さん、私たちにはすばらしい希望がある、あなたの周りにいるすべての人があなたを誤解しても、主はあなたを誤解なさらないと。周りの人々があなたを理解しなくても主はあなたを理解して下さると。そして主のためになすすべての、主がお喜びになる働きは必ず主からそれにふさわしい報いをいただくのだと。その希望が彼らを押し出して行ったのです。しっかりと信仰を保って神に忠実に生きて行こうとした時に、いろいろな迫害があると、ちょっとぐらい妥協したらと我々は思うのです。でも彼らは、いやいや私たちは主の前に立つのだ、その日がやって来るのだ、だから私は妥協することなく主に従い続けよう、そうやって生きていたのです。そのことがこの中に記されている。彼らは信仰ゆえに経験するさまざまな迫害や患難の中にあっても、主を疑ってはいません。彼らはその中にあって、主の約束を信じ、そして主に忠実に従い続けた。だからパウロは彼らのこ

とを誇ったのです。すばらしい信仰者だと。

こういった信仰者は二千年前に存在しただけではありません。我々の群れの中にもそういう人はたくさんおられる。恐らく皆さんの中に信仰ゆえにいろいろな困難を経験している方がおられるかもしれません。でもその中で、しっかりと主を見上げて主の約束に立って行こう、主を信じて、信頼して生きて行こうという方がおられます。主があなたの信仰を大いに祝してくださるよう、そして約束できるのは、あなたのその忠実な歩みに対して主はふさわしい祝福をくださるということです。信仰者の皆さん、あなたはどんなことがあっても主の約束を信じて、信じ続けて歩んでおられますか——。絶望と思えるような、全く光が見えない暗闇の中にあっても、あなたは主を信じて、信頼をおいて歩んでおられますか——。テサロニケのクリスチャンたちはそうやって生きていたのです。最初にも言ったように、あなたもそういうふうに生きることができるのです。

聖書は私たちにいろいろな信仰者のことを教えてくれます。みことばを読んでいると、こういう人が記されている、こういう出来事が記されていることは本当に感謝だと思えます。なぜならそういうことが私たちを励ましてくれるからです。あるお話を皆さんにしたいのですが、アラムの王、ベン・ハダデが北王国イスラエルのサマリヤを陥落させるために大軍を送って包囲しました。しかも悪いことにサマリヤには大変なききんがありました。食べ物が多かったのです。みことば（Ⅱ列6：25）は「ろばの頭一つが銀八十シケル」で売られ、「鳩の糞一カブの四分の一が銀五シケルで売られ」ていたと言います。ろばの頭に大体銀900グラムぐらいの価値があり、1カブが大体1.3リットルと言われてはいますが、鳩の糞1カブの四分の一が銀約60グラムという話です。つまり考えられないようなものが考えられないような高値で売られていたということです。それほど物がなかった。しかももっと悲しいことに母親が自分の子どもを殺して食べていたのです。それほど飢えていたのです。こんな状況にあってイスラエルは「もしあの預言者エリシャがまだ生きていたら私は神様から幾重にも罰を受けるであろう」と言うのです。エリシャを殺すと言っているのです。

そしてこのイスラエルの王は一人の者をエリシャのところに遣わします。王のメッセージを伝えに行くのです。そして彼はⅡ列6：33「これは、主からのわざわいだ。これ以上、何を私は主に期待しなければならないのか。」と言うのです。このメッセンジャーは王からのメッセージとしておもしろいことを彼に伝えたのです。これまで我々は神様に期待して来ました。その結果我々は今何も食べる物がありません。これ以上神に一体何を期待していいのかと。彼らは絶望の中において、希望の光が見えないのです。この時、エリシャは「主のことばを聞きなさい。」と、「あすの今ごろ、サマリヤの門で、上等の小麦粉一セアが一シケルで、大麦二セアが一シケルで売られるようになる。」（Ⅱ列7：1）と言うのです。「あすの今ごろ」、今度は非常に高価な食べ物がとても安価な値段で売られると言ったのです。それを聞いた侍従は「たとい、主が天に窓を作られるにしても、そんなことがあるだろうか。」、たとえ神様が天に窓を開いたってそんな祝福を与えてくださることがあり得るだろうかと言うのです。

彼を責める前に少し考えてみましょう。食べる物がなくて、母親が自分の子どもを殺してまで生きながらえようとしている状態で神様からのメッセージが届くのです。あすの今ごろあなたたちは小麦や大麦を非常に安い値段で買っていると。我々も「神様、信じられません、信じられない」と。

どんなことが起こったのか——。神はこのアラムの軍勢の中に働かれます。彼らはイスラエルが攻めて来るといううわさを聞いてそこから出て行くのです。そして、そこには彼らの食べ物が残りました。神様が言われたように翌日彼らはその小麦粉と大麦を手にする事ができた。「たとい、主が天に窓を作られるにしても、そんなことがあるだろうか。」と言ったメッセンジャー、王の侍従は、エリシャが「確かに、あなたは自分の目でそれを見るが、それを食べることはできない。」と言ったとおり、その日門のところに立ってそれを見はしたけれども、人々に踏みつけられて死んでしまったと、そのように聖書が記したのです。

こうして私たちは神様は言われたことを必ずなさるということをお教えされるのです。不可能だと思うのは我々なのです。我々は人間の知恵と力でやろうとするからです。私たちの周りには不可能と思えることが山ほどあります。でも主のみこころなら必ずそうなるのです。これが私たちの信仰です。テサロニケのクリスチャンたちはそのような信仰をもって生きたのです。そして彼らの生きざまが私たちの神はこんな神なのだと言って人々の前でこの神を明らかにしたのです。そのために我々は生きているのです。私たちではなくてこの神のすばらしさを人々に証しすること、それが私たちが生かされている目的です。だからパウロはこのテサロニケのクリスチャンたちの信仰を人々の前で大いに賞賛したのです。

② 彼らの信仰

また、4節に「その従順と信仰とを保っている」と、彼らの「信仰」と記されています。大変な困難の中で、大変な迫害の中で彼らは主に対する信頼を捨てることはなかったのです。彼らはどんな時でも主に対する強い信頼を持っていたのです。今あなたが抱えておられるその問題、今あなたが置かれている大変な辛い状況の中にあっても、あなたは主を信頼していますか？主を疑って、大変な状況の中で苦しみながら

歩むこともできます。でもその中であなたは喜びを持って歩むこともできる。この私たちの神様に信頼を置くことです。

アブラハムとサラに子どもが生まれるというニュースを彼らが聞いた時の話を思い出してください。アブラハムは100歳で、サラも年老いています。人間的に見たら絶対に不可能です。でもアブラハムの信仰はどうだったか、パウロが教えてくれています。ローマ4：19-22「:19 アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだが生きたも同然であることと、サラの胎の死んでいることとを認めても、その信仰は弱りませんでした。:20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、:21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。:22 だからこそ、それが彼の義とみなされたのです。」とあります。アブラハムはすごいです。でも本当にすごいのはアブラハムの神なのです。アブラハムはその全能のすごい神様に信頼を置いたのです。彼がすごかったのは神様が言われたら必ずそうなると信じたことです。褒められるのはアブラハムではなくて、アブラハムの神、あなたの神様なのです。テサロニケのクリスチャンたちはこの神に対する信頼を失うことがなかった。主はこの困難の中でも、この迫害の中にあっても必ずみこころをなしてくださることを彼らは信じました。

こんな曲があります。讃美歌294番、聖歌651番です。讃美歌の歌詞はこうです。

御恵みゆたけき 主の手に引かれて この世の旅路を 歩むぞうれしき
妙なる御恵み 日に日に受けつつ 御あとを行くこそ こよなき幸なれ
険しき山路も 小暗き谷間も 主の手にすがりて 安けく過ぎまし

実はこの曲はある一人のアメリカ人がアメリカのフィラデルフィアの教会でメッセージをした時に出て来た歌詞なのです。彼は詩篇23篇からメッセージを語りました。その後、主が彼の心に働かれたのは、神によって導かれることの幸い、神が私を導いてくださる、なんと感謝だろうという思いが彼の心を支配するのです。そして彼はこの詩を書いたのです。原詩はこんなふうに訳せます。

主が私を導いてくださる 何と祝されたご配慮だろう 天の慰めが含まれたことば
私が何をしようとも何になろうとも この神の御手が私を導き続けてくださる
主よ、私はあなたに私の手を置きます 決してつぶやいたり、不平を言ったりはしません
満足、どのような運命を経験しようと 私の神が私を導いてくださるのですから

そしてコーラスはこうです。

主は私を導いてくださる 主は私を導いてくださる ご自身の御手をもって私を導いてくださる
主に忠実に従う者になりたいと願っている 主の御手によって私を導いてくださるから

彼も今我々が学んでいることと同じことを主から責められるのです。あなたも私も主に喜ばれる者へと変えられて行きます。テサロニケのクリスチャンたちがそうであったようにあなたも私も変えられて行くのです。でもそのためには神様の助けが必要なのです。感謝なことに主はあなたをつかまえてくださり、あなたを導いてくださる。だから聖霊を消してはいけません。その働きを邪魔してはいけません。かえってあなた自身は、主のみことばを正しく学び、そのみことばに従って行くことです。どんな時でも、今あなたが置かれているその状況の中で主をしっかりと信頼することです。今あなたが置かれているその状況、あなたが経験しているレッスンは主があなたを成長させるためにあなたに与えてくださったものです。しっかりと主を信頼することです。しっかりと主に信頼を置くことです。あなたの神がどんなにすばらしい神なのか、そのことを知っているあなたがその方に信頼を置くことです。その時にあのテサロニケのクリスチャンと同じようにあなたの信仰が成長して行くのです。

今日私たちはこのテサロニケのクリスチャンたちがすばらしい模範を示していたことを見て来ました。あなたも私も同じことをなすことができる。私には無関係だなどと言わないでください。あなたを救ってくださった神様はそのことをあなたに望んでおられる。思い出してください、私たちがこうして生かされているのは、こんなあなたや私を救ってくださった神様のすばらしさを世に証しするためです。我々が主がなしてくださったすばらしい救いのみわざを感謝して、それを人々に伝えるためにです。我々の感謝を表すためにです。今オリンピックがなされていて、日本女子フィギアのアイドルの選手が「これまでお世話になった人々への恩返しができたと思います」というコメントを出したのをお聞きになったと思います。彼女は自分をサポートしてくれた人々、支えてくれた人々、励ましてくれた人々に恩返しをしたいと滑ったのです。あなたも私もこんなすばらしい救いを下さった神様に恩返しをするために生きているのです。どんなにすばらしい神なのかを明らかにするために生きているのです。この救いがどんなにすばらしいものなのか明らかにするために生きているのです。我々信仰者はこの神様のすばらしさを証しするために生きるのです。今あなたが置かれている状況がどういうものかわかりませんが、しっかりと主に信頼を置いてください。主は必ず約束を守られます。主に信頼を置いて、立ち止まるのではなく、後ずさりするのではなく、前に向かって進んで行くことです。必ず主があなたを通してみわざ

をなしてくださる。必ず主がご自身の栄光をあなたを通して現わしてくださる。クリスチャンの皆さん、我々はそのために生きているのです。私たちの神様のすばらしさを神が私たちを通して明らかにしてくださる、そのことを願いながら立ち止まらないで前へ向かって進んで行くことです。この一週間そのように歩いてください。

《考えましょう》

1. 信仰の成長は神の御業であることを学びました。では、私たちには成長に関して責任がないのでしょうか？もしあるとすれば、それは何ですか？
2. どうして、各クリスチャンにとって、すべての兄弟姉妹を愛することが大切なのでしょうか？
3. あなたは主に対して忠実に歩む時に、さまざまな迫害や困難を経験します。そのような中であっても、忠実に歩み続けるにはどうすれば良いのかを書いてください。
4. 「主に言われたこと」を疑わずに信じ続けるためには、どうすれば良いのかをあなたのことばで書いてください。